

平成29年度 西毛地区小学校体育科授業研究会レポート

期日：平成29年11月1日

会場：高崎市立北小学校

単元名：ゲーム ゴール型 「バスケットボール」

指導者：勅使川原 佑多

今年度の西毛地区授業研究会では、高崎市立北小学校の勅使川原先生が授業提供をしてくださいました。今回取り上げたバスケットボールは、ゴール型のボール運動であり、ボールを持たない時の動きを、児童に理解させることができた授業でした。



準備運動

チーム意識を持たせるために、チームごとに準備運動を行いました。どのチームも大きな声で元気よく取り組んでいました。



ドリル練習(パス)

デジタルカウンターを使って、時間を区切りながらテンポ良くドリル練習を進めていたので、児童も集中して取り組みました。



ドリル練習(シュート練習)

ゴール下付近にシュートが打ちやすい目印を付けることで、児童がそこへ向かって動きやすくなっていました。



ドリル練習(パス回し遊び)

「パスをしたら動く」ことを繰り返すことで、本時のねらい「空いているスペースを見つけ動く」に迫れるようにしていました。



ホワイトボードを使った掲示物

「どうしてパスが繋がらなかった？」の発問から、前時のゲームを振り返り、課題追求をすることで、本時のめあてに気付かせました。ホワイトボードには、準備や片付け、タスクゲームなどの役割を可視化することで、マネジメントの時間を少なくする工夫がされていました。



タスクゲームとメインゲーム

2 分間のタスクゲームを行うことで、チームの課題を明確にしました。その後のメインゲームでは、「空いてるよー！」など、児童はパスの指示を積極的に出していました。



チームでの話し合い

タスクゲームとメインゲームの前半終了時に話し合いを行いました。作戦ボードやヌーボードを使うことで、動きのイメージを捉えることができました。

授業研究会では、チェックリストを用いて班別協議を行いました。班別協議のまとめを行った後には、高崎市教育委員会加藤指導主事より指導助言を頂きました。加藤指導主事は、「ボールを持たない動きを、子どもに理解させる授業構想が達成されていた。基本技能を身に付ける場面と問題解決して活用する場面があることは、児童の主体的な学びにつながる。またドリル練習を毎時間、ステップアップして取り組んでいたことが、めあての達成につながった。子ども達は振り返り活動を行うことで、メインゲームで動きを実現できていた。」など、「単元で目指すことを明確にする」という観点からご指導頂きました。

このたびの公開授業及び研修会は、よりよい体育授業につながる大変貴重な機会となりました。授業公開をしてくださった勅使川原先生をはじめ、担当校、主任会の皆様に心より感謝申し上げます。

文責：安中市立細野小学校 茂木 信知